

第41回学会大会開催にあたって

～ 毎日に寄り添う、掛け替えのない“とっておきの”楽しさ・おもしろさを求めて、豊かな“活動”、“生活”、“生き方”を紡ぎ出すレジャー・レクリエーションに向けて～

日本レジャー・レクリエーション学会 (JSLRS)
会 長 鈴木 秀 雄
関東学院大学教授、Ph. D.

第41回学会大会は大分大学の多大なるご協力を得ての開催となりました。大分大学では、既に2002年(平成14年)にも第32回学会大会を古城建一実行委員長(当時)のもとで開催させていただいております。

本年は、国内外で未曾有の自然災害に見舞われ、3月11日の東日本大震災では、はかり知れない人命が奪われ、未だに多くの行方不明者の所在が確認できていない。改めて災害による犠牲者の方々のご冥福をお祈りし、ご遺族に哀悼の意を表し、また、被害にあわれた方々への心からのお見舞いを申し上げます。

たとえ、人が災害などにより、どのようにQOL(生命の質・生活の質・人生の質)を低下させざるを得ない困難・状況に陥ったとしても、個人の生きる喜び(Enjoying Personal Living; EPL)を僅かな光の中にも見つけ出していくことが次への生きる力(源)となり、それが毎日に寄り添う、掛け替えのない“とっておきの”楽しさ・おもしろさを求めて、豊かな“活動”、“生活”、“生き方”を紡ぎ出すことに繋がっていく。このことが正にレジャー・レクリエーションの本質であり、真髄であり、原点でもある。

To have から To be への生活形態の変容を求められて久しいが、今回の東日本大震災をとおして、あらためて“いかに人は共に幸せに生きるためにどのような羅針盤を持つべきか”、余暇における自由裁量活動や状態であっても、単に利己的な考え方ではなく、人との繋がりや絆を大切に、他利的な生き方の重要性を東日本大震災の被災者である人々が、日本国内ばかりでなく海外の多くの人々をも感銘させる気高い行動規範を示し、日本の心温かい豊かな文化が脈脈と息づいていることを実証した。

本学会(JSLRS)も災害発生に伴い学会として“出来ること、為すべきことは何か”を論じ、速やかに“震災対応プロジェクトチーム”を立ち上げ、第41回学会大会においても、それまでの議論を反映する学会大会の開催を意図した。

本大会では、大会テーマを「レジャー・レクリエーションの意味再考 ～いま私たちに求められるころとは～」に置き、

第1日目 [11月18日(金) 13:30～17:00]には、地域研究として、「大分県における障害者スポーツ・レクリエーション動向～九州から世界へのホットムーブメント～」を計画した。

第2日目 [11月19日(土)]には、大会実行委員会企画であるパネルディスカッション(13:15～15:15)テーマ:「レジャー・レクリエーションの意味再考～九州発。いま私たちに求められるころとは～」と、引き続き本部企画としてのシンポジウム(15:30～17:30)テーマ:「震災後の日常世界とレジャー・レクリエーション～ポスト3.11の人と暮らしをつなぐものを探る～」が開催される。

第3日目 [11月20日(日)]は、研究発表(ポスター発表を含む)、学会賞表彰式、総会などが予定されている。(詳細は学会大会プログラムをご参照ください。)

学会全体としては学会の活性化に向け、学会理事長麻生 恵先生の素晴らしいリーダーシップにより、着実な“あゆみ”を続けている。

多くの研究成果の発表の場である学会大会には会員の皆さんの積極的な参加が必須である。ご協力を願うと共に、会員の皆さんの今後のご活躍も祈念しながら、大会会場でお会いしたいと願っている。大会開催にあたりご尽力いただいた大分大学の谷口勇一先生はじめ、ご協力頂きました多くの皆様に衷心よりの感謝と御礼を申し上げます。 ■